

第4回 パラダイムとしての進化論の実態(4) —「恐竜化石の謎」と「放射年代測定 of 謎」—

阿部正紀(東京工業大学名誉教授)

- ◆ 恐竜の化石から軟組織(血管)とその中のDNA、タンパク質が発見され、進化論ではその保存プロセスを説明できないため6千万年以前とされている恐竜化石の年代が反証されている。
- ◆ 進化論で百万年以前と想定されている様々な化石で消滅したはずの放射性炭素C14が検出され、2~5万年の放射年代が得られている矛盾を解く説明を進化論者が提起している。



- 1 恐竜化石で発見された軟組織の謎
 - 2 恐竜化石のC14放射年代測定の謎
- 【結論】、【今後の予定】、【Q&A】

補足: (1) 化石の急速形成、(2) 地層の急速形成

終了後の<二次会>

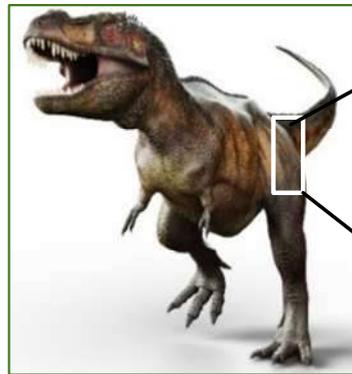
- 補足: (3) 地球誕生の放射年代
(4) C14年代の激変モデル

1 恐竜化石で発見された軟組織の謎

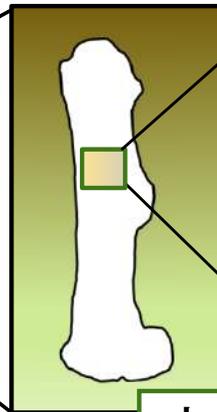
進化論の内実(その2)



メアリー・シュバイツァー
古生物学者
ノースカロライナ州立大学教授



ティラノサウルス(6600万年前)



大腿骨



伸縮する血管

2005-2013年に数種類の恐竜の骨化石から取り出した軟組織から

細胞を発見し、赤血球とタンパク質を抽出し

タンパク質を解析し、コラーゲンと判定し

DNA が保存されている暫定的証拠を得た。

軟らかな“肉”
のようなもの



進化論陣営

新たに実験を行い、その結果、多くの古生物学者が、

軟組織は**本物**であると認めた。

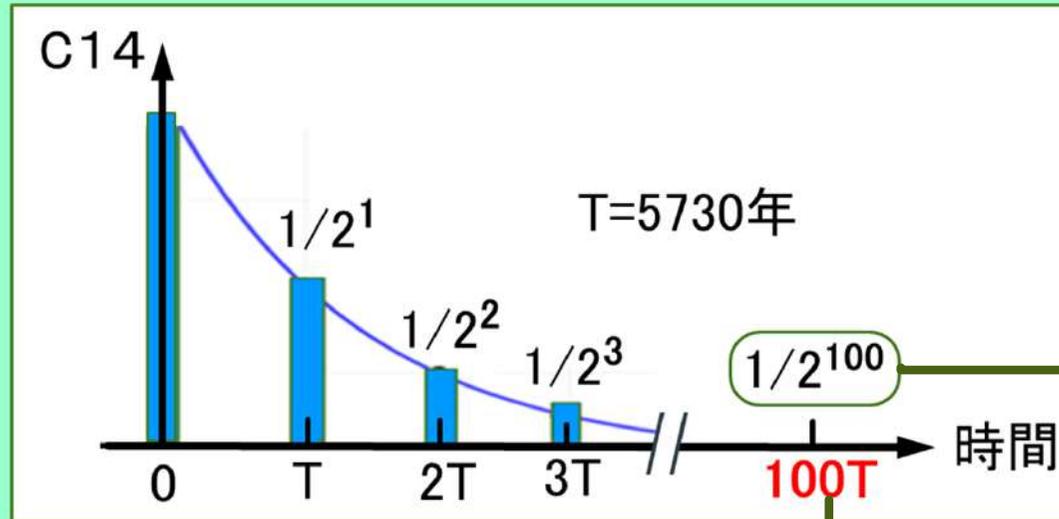
そこで、軟組織が**長期間保存されたメカニズム**を検討した。

しかし、**保存のメカニズムを提起できず現在に至っている。**

進化論では、**恐竜化石**の中で**タンパク質とDNA**が**数千万年以上保存されたことになり、そのメカニズムを説明できない。**

進化論の内実(その2)

2 恐竜化石のC14放射年代測定之谜

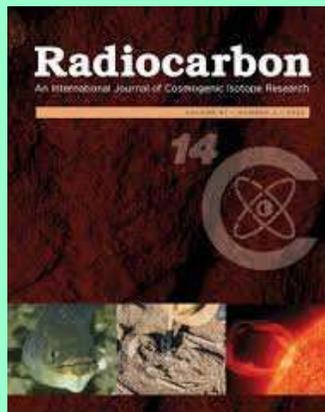


1トンの100% C14試料
 4.3×10^{28} 個のC14

57.3万年後

$$4.3 \times 10^{28} \times 1/2^{100} = 0.03$$

C14が消滅した状態



進化論的年代100万年～数億年の化石
(石炭、石油、天然ガス、古代の人類を含む)で、

- ◆ 消滅したはずのC14が検出され、
- ◆ 約2～5万年の炭素14年代が得られた

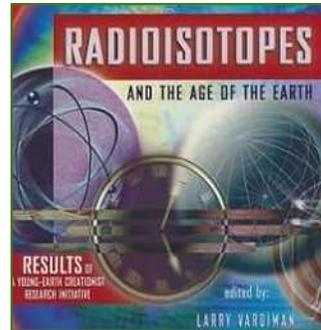
データが多数、20世紀末まで専門誌に報告されていた。

進化論陣営

消滅したはずのC14が検出されたのは
放射性の汚染物質によると主張した。

創造論陣営

iDINOプロジェクトおよび



研究プロジェクト
「放射性同位体と
地球の年齢」
(RATE)
1997-2005年

を推進して

厳密なC14測定と観察を行い、放射性の汚染物質説を論駁し、

恐竜の化石にも2~5万年のC14年代を得た。

ノアの洪水による激変モデルを提起し、
◆2~5万年のC14年代を「若い地球説」
で想定されている6千年以内に収める
説明を与えた。

進化論陣営は、消滅したはずのC14が与えている
C14年代を説明できず黙殺している。

進化論の内実(その3)

結論



◆進化論では、原子・分子には生命を生み出す力が秘められていることを証明できないけれども**作業仮説**として導入している。

進化論の内実(その1)

◆進化論では、**恐竜化石**の中で**タンパク質とDNA**が**6千万年以上**保存されたことになり、そのメカニズムを説明できない。

進化論の内実(その2)

◆**100万年～数億年前**の化石で**消滅したはずのC14**が検出され**約2～5万年**のC14年代が得られている。

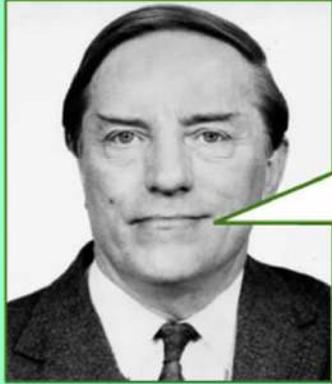
進化論の内実(その3)

創造論陣営は**ノアの洪水**による**激変モデル**を提起して説明している

進化論陣営は黙殺している。

【補足1】化石の急速生成

齊一説に立つ地質学者も**激変**による**化石の急速形成**を認めている



デレク・アガー
スワンジー大学名誉教授

厳格な齊一論者で
創造論者を軽蔑していた

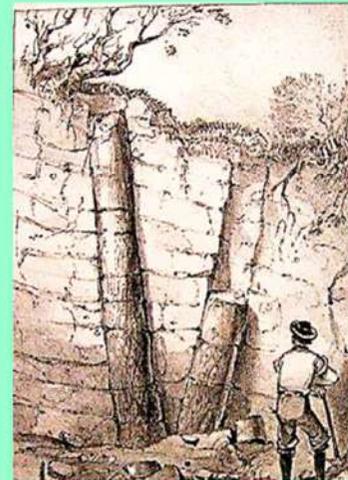
高さ10mの木を埋めるのに**10万年**かかったことになる。これは馬鹿げており、

砂が**急速**に堆積して化石を作った**激変の期間**と、砂がゆっくりと堆積した**齊一の期間**があり、スワンジーの木の**化石は激変期に形成された**と結論せざるを得ない。

『**新・激変説**』、1993年、英文49頁

ノアの洪水に基づく激変説と区別
するために**新・激変説**と呼んだ

1833年に英国の
スワンジー溪谷で
砂岩から発掘された
木の化石



1993年に
アガーが自著で
描いたスケッチ

齊一説

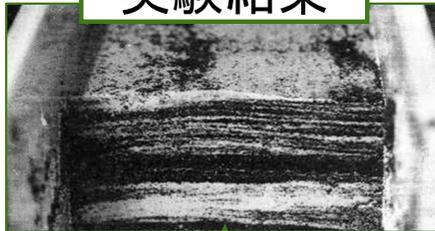
砂岩は、水中で土砂がゆっくりと数万年で1m程度の速度で堆積して作られた。

砂のサイズが環境の変動によって変わるために層状に成長した。



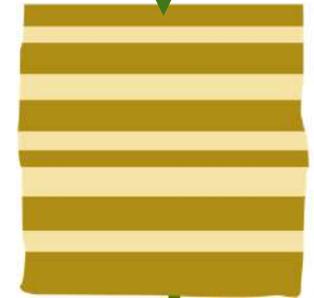
セントヘレンズ山
リトル・グランドキャニオン

実験結果



火山灰の懸濁流が、細かい砂の層と荒い砂の層が交互に重なる7.5mの砂岩を急速に形成した。

3時間で



激変説

火山灰の懸濁流が層状の砂岩を急激に形成する。